

風水害対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策

まずは、
確実な情報が大事
その次に迅速な対応



強風注意報・暴風警報

強風注意報：
平均風速が13m/sと予想される場合
暴風警報：
平均風速が18m/sと予想される場合

大雨注意報

大雨によって被害が起こる
おそれがあると予測される場合。

・表面雨量指数基準 10
・土壌雨量指数基準 115

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こる
おそれがあると予測される場合。

・表面雨量指数基準 23
記録的短時間大雨情報 1時間に雨量100mm

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

やや強い雨 10以上～20未満	強い雨 20以上～30未満	激しい雨 30以上～50未満	非常に激しい雨 50以上～80未満	猛烈な雨 80以上～
雨の音で話し声が良く聞き取れない。 ●ザーザーと降る	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。 ●どしゃ降り	傘を差していても濡れる。 ●バケツをひっくり返したように降る	傘は全く役に立たない。水しぶきであたり一面白っぽくなる。 ●滝のように降る	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。 ●恐怖を感じる ●息苦しくなるような圧迫感がある

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいます。	しっかりと身体を保持しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備える必要があります。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い 猛烈な	44m/s以上54m/s未満 54m/s以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ◆テレビやラジオなどの気象情報に注意する。
- ◆早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- ◆町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- ◆飲料水や食料を数日分確保しておく。
- ◆停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- ◆浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- ◆非常時持出品を準備しておく。
- ◆危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、
注意して
おきましょう！



洪水災害について

水防法に基づき、河川の外水氾濫情報を地図に掲載しています。
以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

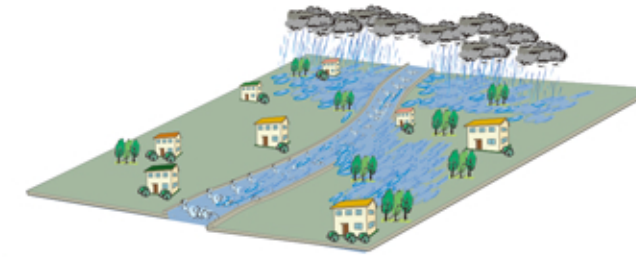
1

氾濫の種類

- 雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、町中の排水が間に合わず、排水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



2

警報・注意報等の種類

洪水や高潮の危険性が高まった際に発表される情報

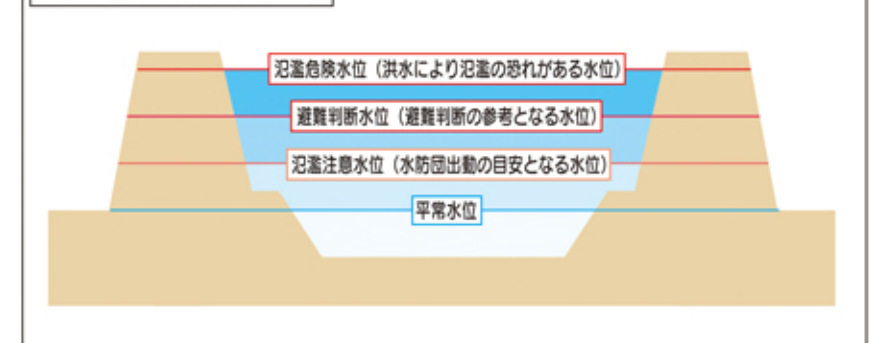
洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を注意して行う予報。

洪水警報(気象庁)

- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を警告して行う予報。

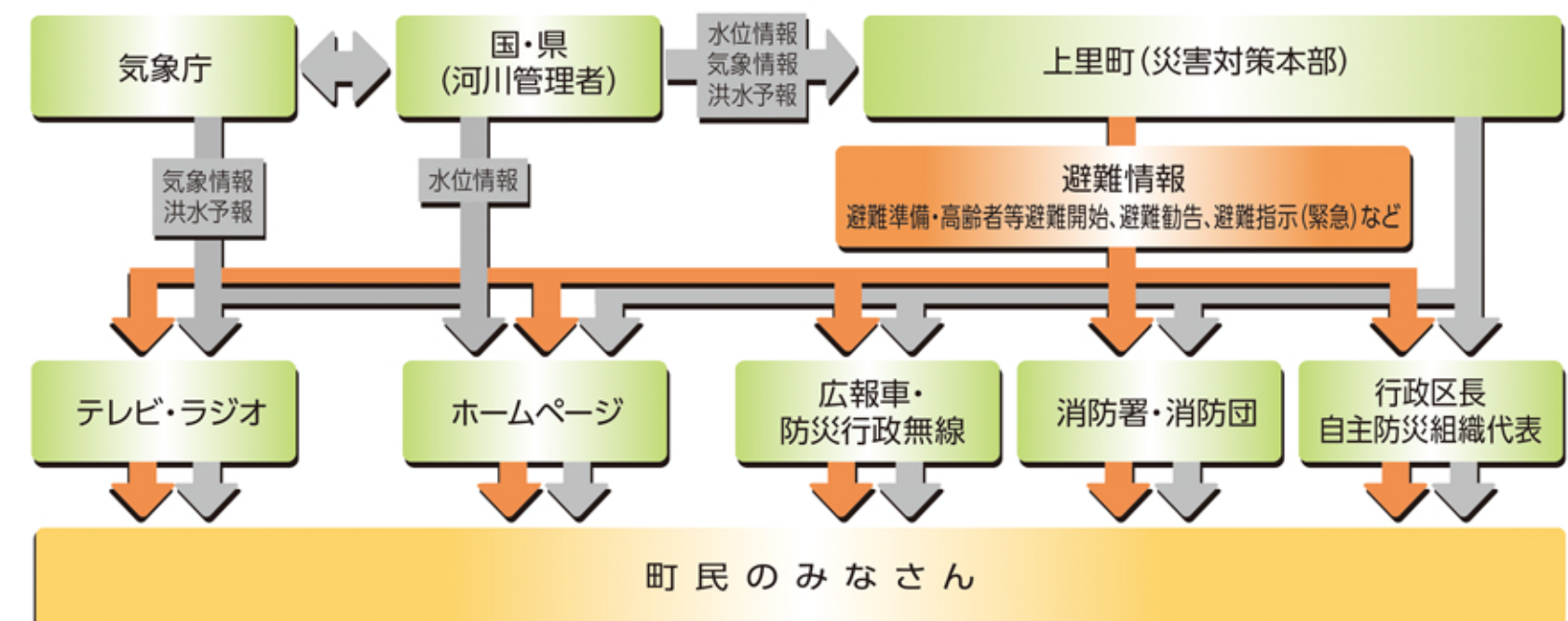
水位にともなう判断基準イメージ



3

洪水情報の伝達ルート

- 気象の異常に対して、下図の伝達ルートで皆さんへお知らせします。



情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。